

令和3年度 環境で地方を元気にする 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業 キックオフミーティング 発表資料

活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備“に取り組む	✓
昨年度から引き続き“環境整備“に取り組む	
昨年度までの“環境整備“を経て、今年度より事業化に取り組む	
昨年度までの“環境整備“と“支援チーム派遣(事業化支援)”を受けて引き続き事業化に取り組む	

活動団体名：福岡筑後プラスチックリサイクルループ協議会
活動地域：福岡県大木町および周辺自治体
(みやま市・柳川市・筑後市・大川市・大木町)

活動におけるテーマ・キャッチコピー

高品質プラスチックリサイクルの地域循環南筑後モデルを
全国へ！

活動団体紹介①

● 福岡筑後プラスチックリサイクルループ協議会について

自治体：大木町、みやま市、柳川市、筑後市、大川市

民間企業：YKクリーン、いその、トータルケア・システム、
エフコープ、大日本印刷、福岡アジア都市研究所

大学：九州大学、福岡大学、北九州市立大学

団体：プラスチック容器包装リサイクル推進協議会等

● 活動地域について

大木町、みやま市、柳川市、筑後市、大川市

● 活動実績

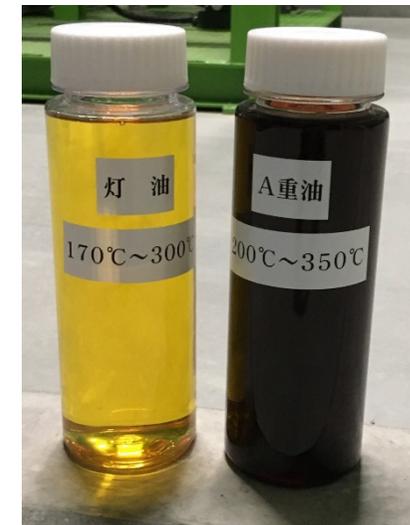
- ・ H30～プラスチックの一括回収及び油化
- ・ 大木町でのワークショップ等の開催

活動団体紹介②

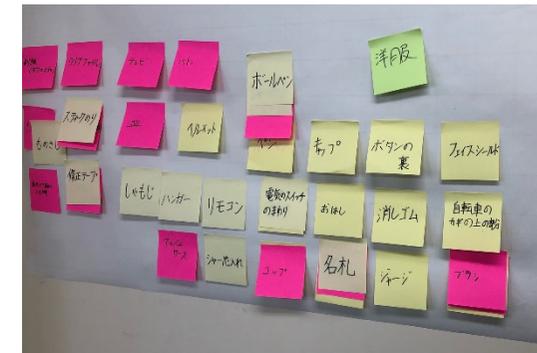
◆活動地域



◆プラスチックの油化



◆開催したワークショップの様子



ありたい地域の未来を実現するために何をするか

ありたい地域の未来

持続可能な循環共生型地域社会の構築

課題（地域の課題、ありたい未来を達成するための障害など）

- ①材料リサイクルの実証事業を進めるための資金
- ②廃プラスチックの広域回収システムの構築
- ③各ステークホルダーの行動を前に進めていくためのエンジン

資源（活用できる地域資源、必要な資源、地域外の資源など）

- ①廃プラスチックの地域回収拠点施設・回収される廃プラスチック
- ②廃プラスチックのマテリアルリサイクル技術

取組（ありたい未来達成に必要な取組、現在想定している事業のタネ）

- ①自治体間の相互連携の強化と発展
- ②市民・企業の行動変容
- ③企業ネットワークの構築

成果（取組によって出したい成果）

- ①南筑後地域（筑後七国）での高品質のマテリアルリサイクルの実現
- ②全国的な南筑後地域（筑後七国）モデルのリサイクルシステムの導入・拡大

目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

現時点での体制

自治体：大木町、みやま市、柳川市、筑後市、大川市

民間企業：YKクリーン（廃プラ選別・資源化施設）、いその（リサイクル事業）
トータルケア・システム（紙おむつリサイクル）、エフコープ（生協）
大日本印刷（総合印刷）

大学：九州大学、福岡大学、北九州市立大学

団体：プラスチック容器包装リサイクル推進協議会

環境整備を通して構築する“地域プラットフォーム”のイメージ

◆自治体間の相互連携の深化と発展

参加自治体の拡大：4市1町→南筑後全域（筑後7国：5市2町）

取り組み：高品質なプラスチック再生品の利用（見える化）例：生ごみ用バケツetc

◆企業ネットワーク

民間企業：既存の企業に加え、電気化学・新興産業・コンビニチェーン
飲料メーカーなども参加

団体：各地の市民団体

→様々な企業が市民・自治体とともにネットワークを形成し、資源循環戦略の
理念（3R+Renewable）を共有

◆市民・企業の行動変容

ワークショップや環境教育コンテンツの共有と発展

年間スケジュール（参考資料）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定			◆キックオフミーティング ←→協定締結（活動予算執行開始）				現地意見交換会		◆中間報告会 ◆中間報告書提出期限		◆活動団体成果報告書提出	◆成果報告会
自治体				◆協議会の開催			◆協議会の開催			◆協議会の開催		◆協議会の開催
大学・自治体			←→バケツデザイン案の作成・住民アンケートの実施				←→シンポジウムの開催					←→環境教育のマニュアル作成
				←→町民ワークショップの開催（年数回）								
企業・大学			←→プラスチック実証実験			←→バケツ試作の検討		←→簡易金型の検討・試作		←→バケツ試作品の作成		
				←→バケツ設計案策定、製造コスト・設計コスト積算								
自治体・大学・企業・団体				←→研究会又は幹事会				←→研究会又は幹事会			←→研究会又は幹事会	